

令和4年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 さきたま史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度10～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	119,030	人	未達	5か年計画の目標数値	
				100,436	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	103,810	人	未達	基準値:103,810人 目標参考値:103,810人 (直近5か年から最大最小除いた3年平均値)	
				97,260	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	480	件	未達	基準値:480件 目標参考値:480件 (直近5か年から最大最小除いた3年平均値・前年度実績124件)	
				294	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	13,806,000	円	未達	当該年度予算計上額 (特別利用料+入館料+物品 ※財産運用収入を除外)	
				11,115,915	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度10～3月分の数字を足して算出	見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入場者数	43,657	人	未達	基準値:41,182人 目標参考値:43,657人(前年度実績) 新屋敷12,232 おひろめ10,149 家形埴輪9,928 ほるたま展4,721 反町展3,788	
				40,818	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	40	校	達成	基準値:28校 目標参考値:40校(前年実績値) なるほど30校 まが玉・埴輪づくり14校	
				44	校			
3	利用状況	団体利用	学校団体の博物館利用校数	197	校	未達	基準値:197校 目標参考値:197校 5か年の最大・最小除いた平均:R3度実績178校	
				192	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	804	点	未達	基準値:804点 目標参考値:804点 (昨年度実績428点)	
				152	点			
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	達成	80%の定性値 (国宝展示室 楽しめた 概ね楽しめた)	
				84	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	未達	80%の定性値 (「よい」・「まあまあよい」数値) 5回 計138/178=78%	
				78	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	① 二子山古墳発掘調査報告書の刊行 ② 奥の山古墳・丸墓山古墳整備報告書の刊行 ③ 古墳群案内板・解説板整備の実施 ④ 収蔵資料等の積極的な公開・活用 ⑤ 収蔵資料等の適切な保存 ⑥ 企画展等の開催 「地中からのメッセージ」展、企画展「家形埴輪の世界(仮称)」、ほるとま展、テーマ展の開催 ⑦ 講座の開催 ⑧ 体験事業の実施 ⑨ 出前授業「なるほど古墳時代」の実施 ⑩ 自由研究相談窓口「調べて分かる埼玉古墳群」の実施 ⑪ 学芸員による 団体案内解説 ⑫ 利用促進のための広報活動 ⑬ シンポジウムの開催
事業の実施状況(9月末)	① 図版作成・現行執筆を行うとともに入札準備を行った。 ② 報告書使用図版の抽出等を行った。 ③ 実施設計委託を発注し、納品された。製作委託発注の準備を行った。 ④ 国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開中。また、5,8月の2回、国宝展示室の展示替えを実施した。 ⑤ 館内IPM作業2回(5,8月) ⑥ テーマ展「新屋敷遺跡」12,232人 「地中からのメッセージ」展10,149人 企画展「家形埴輪」9,928人 「ほるとま展2022」4,721人 ⑦ 世界遺産関連講座(1回)31人 さきたま講座(3回)118人 さきたま子供講座(4回)33人 キッズ古墳群ガイドツアー(1回)26人 県政出前講座(3回)120人 ⑧ 子供製作体験(4回)184人 ⑨ 24校1,023人 ⑩ 422人 ⑪ (コロナ中止) ⑫ 各種媒体対象の広報活動の実施 ⑬ 準備実施
事業の成果	① 報告書を刊行し、関係機関に配布した。 ② 報告書を刊行し、関係機関に配布した。 ③ 鉄砲山古墳、中の山古墳解説板の製作・設置等、当初計画通り終了した。 ④ 国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開を行った。また、5,8月の2回、国宝展示室の展示替えを実施した。 ⑤ 館内IPM作業2回(5,8,3月) ⑥ テーマ展「新屋敷遺跡」12,232人 「地中からのメッセージ」展10,149人 企画展「家形埴輪」9,928人 「ほるとま展2022」4,721人 テーマ展「反町遺跡」3,788人 ⑦ 世界遺産関連講座(1回)31人 さきたま講座(5回)186人 さきたま子供講座(4回)33人 キッズ古墳群ガイドツアー(2回)42人 (保護者含) 県政出前講座(7回)316人 ⑧ 子供製作体験(4回)184人 ⑨ 出前授業 44校計2,263人(「なるほど古墳時代」30校1,404人「作ってみよう! まが玉」10校627人「作ってみよう! はにわ」4校232人 ⑩ 自由研究相談窓口「調べて分かる埼玉古墳群」7/16~8/28 ⑪ 学芸員による展示解説案内 「さいたまの考古おひろめ展」4回30人「家形埴輪」4回43人「反町展」1回14人 他団体解説随時 ⑫ 「彩の国だより」7回、報道発表8回、テレビ・ラジオ15回、タウン誌等への情報提供30回、ホームページ更新209回等実施。 ⑬ 254名参加と盛況であった。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	42,854,000円	職員一人あたりの県民人口 (令和4年度)	33.3万人
収蔵資料総点数 (R5年.3末現在)	2,323箱	事業経費 (上記の内数)	30,460,000円	利用者一人あたりのコスト (令和4年度)	426円
令和4年度 収集資料点数	0箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	1,525,000円 (7,514,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和4年度)	1.37%

令和4年度(令和5年度4月1日現在)の埼玉県推計人口は7,328,073人である

2. 全館共通項目チェックリスト

さきたま史跡の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態ないし課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	館ミッション
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上に基づく
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	S43以来継続調査
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	資料調査時に適宜収集
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	B	整理・報告書作成
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価委員会設置要綱
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	B	収蔵資料管理要綱
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	B	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	忌避剤散布収蔵庫清掃
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	学芸会議等で周知
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	資料保存管理WG
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	温湿度管理
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	収蔵庫定期清掃
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	モニタリング実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布収蔵庫清掃
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	データロガー利用
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明器具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	B	収蔵庫定期清掃時実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	B	収蔵庫定期清掃時実施
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	脱酸素剤封入等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の更新

項目	チェック内容		評価(A～C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	B	更新遅滞
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	博物館条例管理規則
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	HPに公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	適宜活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	館外貸出
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	特別利用
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	HP情報更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	B	更新遅滞
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	温湿度管理、忌避剤散布
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	内容・文字量・フォントに配慮
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視・警備員配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館中適宜巡視実施
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	ガイドブック刊行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	6種類配架
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	展示解説等実施
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	分析後対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP公開・催事案内配布
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP/彩の国だより等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話・電子申請・来館時等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	子供・一般対象
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティア配置

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	説明・注意喚起・保険加入
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケート実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	体験工房・情報コーナー
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習・インターンシップ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	体験・解説・環境ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア活動要領
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	研修実施
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP・館報に掲載
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	B	秋祭りに地元NPO参加予定
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	B	さきたま火祭り・鉄剣マラソン等
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	テーマ設定
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	紀要印刷費・調査旅費
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	研修会等参加
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修会等参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	B	適宜実施
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	古代歴史文化協議会
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座・企画展・解説・紀要等
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	シンポジウムの開催
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算で実施
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	重り・テグス等で転落防止
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防避難訓練
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	B	館内休憩コーナーのみ
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車いす4・ベビーカー1

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設・設備点検実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用8台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	階段手すり設置済
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインを活用
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	入館のしおり英語版
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏期開館時間延長
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	大型バス・普通車295台
施設の活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPIに利用案内
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	さきたま秋祭り等
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	行田市郷土博物館等

3. 館別独自項目チェックリスト

さきたま史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態ないし課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
史跡整備事業の実施と活用	① 外部からの指導・助言を得ているか。	A	整備協議会
	② 全体的な整備計画を策定しているか。	A	R3基本計画策定
	③ 情勢の変化に応じて、適宜見直しを図っているか。	A	整備協議会
	④ 地元との定期的な意見交換を図っているか。	A	古墳公園づくり連絡会議
	⑤ 担当職員を史跡関連の研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備会議
	⑥ 調査の現地見学会を実施しているか。	-	現地見学会
	⑦ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか。	A	考古学講座 遺跡査報告会
	⑧ 整備事業の成果を各媒体を通じて広報しているか。	A	報道発表、 当館H. P
	⑨ 整備事業の成果を展示等を通じて公表しているか。	A	スポット展・ パネル展
	⑩ 発掘調査・整備報告書を適切に刊行しているか	A	補助事業
公園整備と利活用	① 全体的な整備計画を策定しているか。	A	県土整備部 策定
	② 公園利用についての諸規定があるか。	A	古墳公園利用 規定
	③ 公園が地域に利・活用されているか。	-	さきたま火 祭り等
	④ 外部に利・活用を呼び掛けているか。	A	観光情報誌 等情報提供
	⑤ 担当職員を公園に関連する研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備 会議
考古体験事業の実施	① 考古の専門館としての体験メニューを複数用意しているか。	A	まが玉づくり 等9種
	② 安全に配慮しているか。	A	説明時に注 意喚起等
	③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	A	事業ごとに 実施
	④ 適宜改善を図っているか。	A	適宜図って いる
	⑤ 外部からの出張事業の要請にもこたえているか。	A	出前授業実 施
	⑥ 様々な媒体を通じて情報を発信しているか。	A	情報発信件 数 451件
企画展示事業の実施	① 考古の専門館としての企画展を実施しているか。	A	企画展開催
	② 最新の考古資料を展示・公開しているか。	A	最新出土品 展開催
	③ 学芸員による展示解説を行っているか。	A	企画展開催 時
	④ 展示図録・ポスター・リーフレット等の紙媒体を作成しているか。	A	展示ごとに 作成
	⑤ 考古に関する講座・講演会・調査発表会等を開催しているか。	A	関連講座開 催
	⑥ アンケートを実施して、見学者の意向を把握しているか。	B	常置アンケ ートに項目設定
	⑦ 展示情報を様々な媒体を通じて発信しているか。	A	ホームペー ジ・ツイッター 等

令和4年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	0	4	
各館独自	数値目標による評価	2	4	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	78	12	
各館独自	チェックリストによる評価	25	1	

自己評価総括

評 価	<p>(1)全館共通項目 【利用者数・常設展観覧者数】いずれの数値も昨年度を僅かに上回ったが、5か年計画の目標数値の84%であった。別添グラフのとおり、令和2年度にコロナ影響・臨時休館で半減した利用者数は令和3年度にほぼ戻ったが、例年6月にピークを迎える学校団体数が、コロナ前の70%程度に減少したことが大きな要因と考えられる。 【事業情報の発信】昨年度同様、コロナ禍での館運営のため、例えば講座等は人数制限するためにあえて「彩の国だより」等の掲載の見合わせを行ったため、未達であった。 【観覧料および事業等収入額】目標値の約80%であったが、昨年度比較では約10%増であった。入館者数は昨年度比1%増で留まっており、ミュージアムグッズ売り上げに起因すると考えられる。</p> <p>(2)館別独自項目 【企画展等入館者数】昨年度実績の約93%とやや減少に転じた。秋季企画展期の入館者数が例年より少ないことが要因と考えられる。 【出前授業・学校団体利用】出前授業は予定校数を応募校すべてで実施できた。出前体験学習も要望すべてに対応できた。学校団体利用はわずかに目標値に届かなかった。 【資料管理】資料点検及びIPM予定の日程を、急遽生じた本館および將軍山展示館等での虫対策に費やしたことと、令和5年度の工事に伴う資料搬出計画策定のため、目標を大きく下回った。 【アンケート満足度】国宝展示室の満足度は高かったが、講座アンケートについてはわずかに目標値に届かなかった。</p>
	課 題
対 応 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> 博物館業務の中核である資料保存・管理について、短・中・長期的計画を立案・実行する。 魅力ある事業の開発・発信を行う。また、拡張した古墳公園の活用を通して古墳公園そのものへの入れ込み数の拡大を図る。SNSによる情報発信とデジタル技術の活用(DX)を進める。 防犯対策を検討すると同時に、一層の史跡整備をすすめ、広く情報を発信していく。

評価結果に対する外部コメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<p>委員意見</p> <p>全館共通項目、特に利用者数・観覧者数の目標値を高く設定しすぎではないか。添付グラフを見ると、コロナ後に健闘している状況がよくわかる。また令和4年度にさまざまな事業展開を行っていることも評価できる。</p> <p>またホームページ閲覧数の近年の増加は大変すばらしい成果である。それだけ注目されている証拠である。</p> <p>二子山古墳のき損は衝撃を受けた。関係機関と連携し、防犯対策もしっかりやっていただきたい。</p> <p>観覧者数等の目標値が高すぎるが、コロナが猛威を振るった時期～アウターコロナまで、博物館は試行錯誤の中、どのように対応したかの各種記録を教訓として残すことは大事である。さきたまは全国区であるため、入館者数は大変健闘していると思う。かたや市町村立の資料館・博物館などの小規模館の入館者数は強烈に減少し、まだ回復していない。</p> <p>今後も魅力ある展示やホームページをはじめとするネット活用の事業展開、積極的なアウトリーチなどで魅力ある活動を続けていただきたい。</p> <p>またさきたまのウリである、まが玉づくりは、最近は公民館等でもよく実施されているが、本物の勾玉を有する博物館ならではのメリットを生かしていただきたい。</p> <p>コロナ～アフターコロナの中、よく検討していると思う。是非、出前授業を今後も積極的に行っていただきたい。そこで学んだ児童・生徒のうちの一定割合は博物館に足を運んでくれるお客さんになっていただけたと思う。</p>
--------------	--